

## 「中国人と日本人のものの見方の違いについて」

兵庫県教育委員会事務局人権教育課主任指導主事 永峰 恵介

共同研究・共同授業協力者等

- 1 学校名・名前 : 伊丹市立鴻池小学校 投石悠一  
実践教科 : 総合的な学習の時間  
指導時数 : 1時間(10/14)  
対象学年 : 小学4年生 対象人数:28人
- 2 学校名・名前・担当教科 : 県立夢野台高等学校 阿部恵子(家庭科)  
実践教科2 : 特別活動  
指導時数 : 1時間(2/5)  
対象学年 : 高校2年生 対象人数:240人
- 3 学校名・名前・担当教科 : 甲南高等学校 澤武潤子(英語科)  
実践教科3 : 「時事英語」  
指導時数 : 1時間(12/20)  
対象学年 : 高校3年生 対象人数:8人

### 教師海外研修に参加して私は、ココが変わった！

#### BEFORE

20年前の見方や感じ方

約20年前に中国に行った。行き先は、北京と上海。北京は、独特のにおいがして、香港と共通のにおいであった。料理も北京独特の味がしていた。北京の空港は、少し古い印象で、国内線で移動するのに飛行機の整備不良で12時間ほど遅れたことが印象に残っている。

観光目的で行ったこともあり現地の人とのコミュニケーションは、ほとんどなかった。万里の長城や故宮などの中国文化にはふれたが、「中国」との交流がなかったことが思い出された。

#### AFTER

今回の研修参加後の見方や感じ方

今回の教師海外研修でも、まずは、北京に行った。北京首都国際空港は、最新の空港に生まれ変わっており、電気自動車が音もなく空港内のフロアを走っていたり、上海万博の影響もあってか、国際性豊かな人々がひしめいていたり、かなり印象が変わっていた。

今回は、北京だけでなく、内モンゴルや天津にも行った。訪問先では、目的意識をもち、たくさんの中国の方々とのコミュニケーションができたことで、観光目的とは違い、「中国」と交流ができたように思う。

## < 教師海外研修を通して感じたこと >

外国人から「日本人は旅行が好きですか？」と尋ねられたら、あなたは、どのように答えるだろうか。教師海外研修に参加する前に、神戸在住の中国人留学生 R さんに「中国人は旅行が好きですか？」と尋ねた。すると「わかりません。」との答えであった。

その時、私はとてもうれしく思った。そして、今回の研修でも、あえて何人かの中国人に「中国人は旅行が好きですか？」と質問してみた。その答えには、次のようなものがあった。

「知りません。」「わかりません。」「答えられません。」「その質問は答えにくいです。」…中国人は、中国のことを教えてくれないのだろうか。それとも会話が苦手なのだろうか。

ほかにもこのような答えがあった。

「私は、中国人を代表しているわけではないのでわからない。」「中国人全体のことはわからないけれど、私自身は旅行が好きです。」これが、私がうれしくなった理由であった。

私はこれまで、日本人を代表しているわけでもない、ある日本人が「日本人は、みんな旅行が好きだから、時間があれば旅行に行きたがるのですよ。」などといっているのを聞いて、どこか違和感を覚えていた。個人の基準で“みんな”のことまで答えているような違和感を感じていたのだ。

また、中国リハビリテーション研究センターを訪れた際に、渡り廊下にたくさんの日本人の写真が飾られていた。このセンターは、日本から資金と技術の援助をうけて建設され、今も多くの専門の人材を輩出し、リハビリテーションを必要とする方々に役立っているとのことである。この写真を飾っている意味は「水を飲むときは、井戸を掘ってくれた人のことを忘れるな」ということらしい。

私自身、忘れかけていた感覚を思い出し、はっとした瞬間であった。

このほかにも、紅丹丹での視覚障害者音声情報提供技術指導事業の見学や庫布齊での、360°見渡す限り続く庫布齊砂漠から吹く風、そして錫尼鎮布哈岱村での村のみなさんのあたたかなもてなしなど、心に残るたくさんの経験をしたことを、私の今後の教育実践に活かしたいと思っている。

## 1. カリキュラム等

### (1) 実践の目的/背景

#### ア 人権の視点

近年、日本においては、国際化や情報化、少子高齢化などが急速に進み社会状況が大きく変化する中で、価値観の多様化や個人の権利意識の高まり、生命を軽んじる風潮などを背景に人権にかかわる様々な課題が生じている。

また、日本語指導が必要な外国人児童生徒の公立学校への就学が増加する中、外国人児童生徒の自己実現を支援するとともに、すべての児童生徒が互いの「違い」を「違い」として認め合い、多様な価値観を受容しながら、共に生きようとする意欲や態度をはぐくむ必要があり、現在、その取組が行われている。

しかしながら、中国における人権に関する日本国内での報道によると、自由に発言がで

きない、特にインターネット上でさえも言論に検閲があるなど国民の人権が保障されているとは言いにくい状況だと感じることもある。

教育現場ではどのような状況なのか、開発教育を実施するうえで支障はないのだろうか、と考えながら教師海外研修に参加したのだが、結論から言うと、明確な答えは見つからなかった。

そこで、実際に私自身が見たこと、感じたこと、特に中国のよいところを伝えていくことをテーマに共同授業をすることとした。

## イ 共同授業

現在、教育行政で勤務している私は、伊丹市立鴻池小学校の投石悠一教諭、県立夢野台高等学校の阿部恵子教諭、甲南高等学校の澤武潤子教諭と共同研究をさせていただくこととなり、それぞれの学級で1時間の授業を担当した。私が担当したどの授業もねらいや基本的な内容は共通したものなので、ここでは主に、県立夢野台高等学校での共同研究について述べていく。

(参考) 永峰担当授業の共通指導内容

- 1 県下の日本語指導が必要な外国人児童生徒について
- 2 人権の視点から見た教師海外研修(中華人民共和国)

### (1) 砂漠化についての現状と植林等

中国では、かつて森林であったところが、どんどん砂漠化していた。このままでは、砂漠がさらに広がっていくので、地球全体の危機と言える。

それを防ぐため植林をして砂漠化を防いでいる現場を見てきた。

なぜ自分がしなければならないのか、なぜ中国がしなければならないのか、ではなく、「誰かが防がなければ」と、10年ほど前から、こつこつ植林をはじめ、それをライフワークとしている中国人がいた。樹木は確実に育っており、自分の命がある限り植林を続ける覚悟だという。彼は、日本が、そのための資金や技術を援助していることを、決して忘れてはいなかった。いつも感謝しているとのことである。

### (2) 言葉にあらわれる感覚

外国人と話をしたことがあるかもしれないが、外国人から「日本人は、おにぎりが好きですか?」と尋ねられたら、どのように答えるだろうか。

中国人に、「中国人は餃子が好きですか?」と尋ねると、彼らは、「私は中国人の代表ではないので、中国人(全体)のことはわかりません。」と答える人が多かった。

- 3 よりよい子ども多文化共生社会の創造のために

## (2) 授業の構成等(県立夢野台高等学校 阿部恵子教諭)

### ア 教材観

人権学習として身近な人権課題を取り扱うとき、「同和問題」、「外国人」、「いじめ」等々が扱われることが多いが、生徒の中には、人権 LHR は「余計な発言は避けたい時間」という認識があるとみてとれることがある。個々の人権課題を解決するための意識の向上は図れても、根本的な「『人権』とは何か?」という問いかけには、明瞭に答えられにくい。

今回の人権学習は、個別の人権課題に対しどのような取組が必要かという観点と、人

権一般の普遍的感覚な視点からの取組をはかる観点の2つの柱から成り立つ総合学習である。

そして、人権感覚の育成を図るための題材の一つとして「開発教育」を手段とすることは有効であると考えます。「開発教育」の視点から人権を考えることは世界の人間について考えることにつながるからである。

#### イ 生徒観

NIE 活動を通じて得た中国に対する本校生徒のイメージは、2002年の冷凍ホウレンソウ農薬検出事件に端を発し、2008年の冷凍ギョウザ事件、乳製品のメラミン混入事件等の影響もあり、これまで総じて良いものではなかった。昨今の外交上の諸問題の報道を受け、さらに否定的・攻撃的な見方をする生徒が増えた。

本校当該学年には、中国と関わりの深い家族構成がある者が数名いる。子どもたちの間で交わされる言葉には注意が払われているが、それでも、ひやりとする発言が飛び出す瞬間もあり、中国に対する差別的な意識が彼らの中にあるように感じる。

しかし一方で、中国と関わりの深い生徒が話す美しい中国語に感嘆の声をあげ、非常に純粋な興味から様々な問いかけをする生徒の中に「違いを受容できる」素直な人権感覚もある。

#### ウ 指導観

自分がどこに所属するか（アイデンティティ）を考えることは、自分が所属しない領域との違いを区別する知的分別から始まる。区別の際に偏った情報が抽入されると区別は差別へと変質する。つまり、民族意識や民族差別感情は先天的なものではなく「後知識の産物」ということとなる。従って、高校生という知的発達著しいこの時期にこそ、様々な切り口から考えて人権感覚を研ぎ澄ませることが必要と考える。

人権一般の普遍的感覚の涵養を図る学習では、個別の人権課題について考える学習とは方法を違え、生徒の発言が活発に行きかう授業の方が効果的であると考えます。そして多様なものとのとらえ方が存在することを体験させる。授業の中で偏った情報が入り込まないようにするために、教材プリントの題材として生徒を中心に据えた教材プリントの題材や紙面作りには十分に注意を払いたい。

また、学習が発展していく中で特定の民族・国を扱う場合は、単に「違い」を認識し相互に共通する点を理解するだけでなく、相互の歴史・伝統、社会背景などを踏まえた多元的な価値観を尊重しあう態度を育成することをめざしたい。

#### エ 授業計画

##### (ア) 1時間目(11月18日(木))

日常生活の中の思考回路と人権について考える(担当:阿部)

思いこみ ~人がもっている枠組みについて考える~

##### (イ) 2時間目(11月25日(木))

なぜ、中国についての学習が必要なのかを知る(担当:永峰)

- ・ 県下の日本語指導が必要な外国人児童生徒について
- ・ 人権の視点から見た教師海外研修(中華人民共和国)
- ・ よりよい子ども多文化共生社会の創造のために

(ウ) 3～5 時間目 (12月15日～17日)

中国を理解し、日本について改めて考える (担当: 阿部)

「思いこみや決めつけ」について学習する

(家庭科・ロングホームルーム・総合的な学習の時間の中での取組)

- ・ さまざまな場面における「思いこみや決めつけ」
- ・ 相手の目に映る「自分」が本当の「自分」であるかどうか、友だちの言葉に翻弄されていないかのふりかえり
- ・ 「思いこみや決めつけ」が原因で起こる誤解や争いごとの原因

#### 生徒の感想 (永峰担当授業)

- ・ 日本からの援助により、中国でも義足が作られているのだと知った。
- ・ 想像していた中国と違う一面を知ることができて良かった。
- ・ 中国に対してあまりよい印象がなかったけれど、少し中国に対する印象が変わった。
- ・ 意識しないうちに、日本の方が中国より進んでいるという考えをもっているのだと気づいた。
- ・ お互いに理解し合う、その気持ちがまず大切だと思った。
- ・ 日本で当たり前のことであっても、日本に来た外国人に強制しないことが大事だと思った。
- ・ 自分の意見をしっかり伝えること、人と分かり合おうとする気持ちが大切だと思った。
- ・ “言葉”を理解する力と“心”を理解する力を、ぜひ身につけたいと思った。
- ・ 一人一人違うことを意識すればうまく外国の人や、同じ日本人とも暮らしていけると思った。

所感 (共同研究・共同授業全体をとおして)

伊丹市立鴻池小学校

好奇心旺盛な小学生に、同じものを見て、同じ経験をして感じ方やとらえ方が同じとは限らなかったことを話すと、きらきらと目を輝かせ、興味津々の様子だった。児童と投石教諭との人間関係が、児童の興味を倍増させていると感じた 10 / 14 時間目の授業だった。

県立夢野台高等学校

知的好奇心が旺盛な高校生に、講義形式で授業をしたのだが、240 人と人数が多かったこともあり、同じものを見て、同じ経験をして感じ方やとらえ方が同じとは限らなかったことが伝えられたかどうかと心配になった授業であった。私が担当した 2 / 5 時間目以降に阿部教諭が「思いこみや決めつけ」の授業で、うまく補完してくださった。

甲南高等学校

12 / 20 時間目に、8 人の生徒に時事英語として、同じものを見て、同じ経験をして感じ方やとらえ方が同じとは限らなかったことを英語で伝える授業は、私には過酷な時間であった。高校生の英語力と澤武教諭の 11 時間目までの授業によって、うまく生徒の興味・関心を引き出されていると感じた。

## 2 . 成果と課題 (共同研究・共同授業全体をとおして)

中国に対する「思いこみや決めつけ」に気づかせ、お互いに理解し合うことの大切さを伝えることができた。

そのために、人と分かり合おうとする気持ちのもと、自分の意見をしっかり伝えることや“言葉”を理解する力と“心”を理解する力を身につけようとする意欲をもたせることができた。

中国での研修や体験から、同じ経験をして、感じ方やとらえ方は人によって同じとは限らないことに気づかせ、児童生徒が互いの「違い」を「違い」として認め合い、多様な価値観を受容しながら、共に生きようとする意欲や態度をはぐくむことができた。

今回指導したことが、日常生活の中で、自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践行動につながるよう人権感覚として定着させていく必要がある。

そのためには、学校の教育活動全体を通じて、人権に関する知的側面、価値的・態度的側面、技能的側面を総合的にはぐくむ取り組みを継続していくことが大切である。

参考:授業で使ったプレゼンテーションなど



庫布齊沙漠



内蒙古自治区植林植草事業



中国リハビリテーション研究センター



内蒙古博物館



県立夢野台高等学校での授業の様子



県立夢野台高等学校での授業の様子